

行こか！大阪・関西万博 ～地方銀行が世界に魅せるミライ～

もうすぐ夏休み！夏のご予定は立っていますか？未来を垣間見ながら、世界一周なんて旅はいかがですか？「そんな夢の旅なんてあるわけがない」とお思いですか？それが、あるんです、大阪は夢洲に。大阪・関西万博です！世界の160を超える国と地域等のパビリオンが集結。その土地の名物料理だって味わえちゃいます。

ご自身の25年後の姿もちょっと見てみたくはありませんか？そして、地球と人類の未来を助けるかもしれない日本の進化する技術力も必見！どちらも大阪ヘルスケアパビリオンで体験可能です。

こうした確かな技術を持ち、まだ世界には知られていない地元企業と地方銀行はたくさん繋がっています。一部ですが、大阪ヘルスケアパビリオンの一画「リボンチャレンジ」に出展していますので、ご紹介いたします！

関西みらい銀行

大阪・関西万博の開催期間全26週間のうち4週間が、大阪府に本店を置く関西みらい銀行を含むりそなグループの展示期間で、4週をそれぞれ春・夏・秋・冬の四季になぞらえたコンセプトとしています。今回ご紹介するのは、4月21日～28日に実施された「夏」。夏といえば、青い海、緑の山々、太陽の強い日差し。これらの自然環境を守ることは重要です。そこで「夏」のテーマはSDGs・環境とし、自然と共存するための技術を持つ同グループ押ししの企業10社が自慢の技術を展示しました。

ついこの間まで、ここ日本で経験することのなかった夏の酷暑に豪雨。地球上で過剰に排出される二酸化炭素（CO₂）が原因と言われています。もし、1人ひとりが案にCO₂の削減に貢献できたら、すばらしいと思いませんか？それも美味しく。そんな「美味しい」技術を開発するのが、株式会社ノベルジェンです。陸上で、短期間で、高品質の牡蠣を育てて、食べて、CO₂削減を目指します。牡蠣は、CO₂を吸収しながら増殖する植物プランクトンを餌に成長し、そのCO₂は貝殻に閉じ込められます。人間が牡蠣の身をいただき、牡蠣殻はコンクリートにして地中に埋めてしまふ。これは、CO₂の吸収とmade in JAPANの牡蠣養殖を同時に行うミライの技術です。

他にも、都市・過疎地・砂漠といった地域で、省スペースで魚の大量飼育が可能ならだけでなく、植物の栽培までも組み合わせ、効率的に環境に配慮した食糧生産を目指すレックス工業株式会社の水の循環システムや、これまでにないほぼ清浄な再生水の生成技術で、水道が整備されていない場所でも水洗トイレのような快適さを実現した株式会社TI plusホールディングスの自己完結型 排水リサイクルトイレシステムなど、地球にやさしいミライの技術が展示されました。

「夏」は終了しましたが、9月2日～8日の「秋」と9月9日～15日の「冬」に、ぜひ実際に足を運んでみてください。そこには、まだ出会ったことのないミライが広がっています。



「どうして牡蠣なの？」牡蠣は他の貝と違って、付着すると、生涯、そこから動かずに成長するので、肥育しやすいそうです。

水源不要！排水放流なし！臭わないトイレ！「未来を守るトイレを世界中に」ミライのトイレ「エコノフ」。



一体システムで、植物も魚も同時に育てることができる「未来の都市型農漁業」。今回は、数万匹に1匹しか現れない珍しいパンダらなぎも来場。



㈱たまゆらx高麻㈱の帽子を着用する運営スタッフを発見！詳しくは、「地銀協レポート」vol.15をご覧ください。



「鳥の巣」をイメージしたパビリオン外観。

大阪ヘルスケアパビリオン

地元大阪の自治体や企業、大学、そして府民・市民等が一体となって、「REBORN」をテーマに出展するパビリオン。「25年後の自分」に会えるリボン体験を始め、いのちや健康、近未来の暮らしが体感可能な、わくわくする展示が満載！オール大阪の知恵とアイデアを集結し、大阪のパワーを世界に発信します。



「25年後の自分」は、このようにディスプレイに表示されます。

池田泉州銀行

5月20日、リボンチャレンジに、「大阪超越文化横丁」が出現しました。ここでは、これまでの常識を“超越”する、新たな技術やサービスが創り出す面白いミライを見ることができます。展示を主催するのは、大阪府に本店を置く池田泉州銀行。パンフレットを受け取ると、さすが大阪。面白いキービジュアルが目を引きまします。めくってみると、訪れた日は、展示期間3週間のうち第1週目で、「大阪発！ワクワクする未来の暮らし」がテーマの10社の展示が行われていました。

早速、中に足を踏み入れると、「この折り紙、こすって香りを嗅いでみてください」と声をかけられました。試してみると、とても爽やかな香り。ここは、香り付きインクを印刷する技術を持つ久保井インキ株式会社のブースです。良い香りにはリラックス効果がありますが、実は認知機能を回復させる力を持つ香りというもあるんだそうです。好きな形を折り指先で頭を使いながら、香りでも脳を活性化させる。魔法のような折り紙が身近になるミライが、もうすぐやってくるかもしれません。

先に進むと、小さな水槽を発見。中には、株式会社ノイカの技術により、マングローブの生態系が再現されていました。ノイカは、海を始め、世界中に実在する水の世界を、水槽の中に完全再現できる環境移送技術®を持った企業です。再現された世界は、見て美しいだけではなく、例えば、環境にやさしい日焼け止めを開発するとき、塗ったまま海に入っても、そこに棲んでいる動植物に悪影響は無いが、実験するのに活用されたりします。ミライの環境を守る重要な役割を担っているのです。

さらに進むと、今度は「お姫さま抱っこ」を体験できるブース。展示されていたのはハンモック型のロボット「SASUKE」です。これがあれば、ハンモックでくつろいだ体勢のまま、ベッドから車いすへ、そしてソファへ…など、楽々と移乗することができます。開発したのは、介護用ロボットなどを数多く手掛けるマッスル株式会社。同社の技術により、高齢化が進む日本でも、介護する側・される側の両方にとって、安心して快適なミライが実現されるでしょう。

6月9日をもって、「大阪超越文化横丁」は幕を閉じてしまいましたが、専用サイト (<https://www.w.sihd-bk.jp/corporation/expo2025/choetsu/>) ではまだまだ出展企業の情報を見ることができます。これからの「面白いミライ」を引っ張る企業のきらりと光る技術に、要注目です。



マングローブを再現した水槽。魚も元気に泳いでいます！



香り付き折り紙は、いちごやバナナ、アロマキャンドルなど、展示されているだけでも14種類の香りがあります。折り紙でできたミャクミャクもいました。



「お姫さま抱っこ」を体験中の池田泉州銀行 阪口 広一 取締役専務執行役員(取材当時)。



大阪超越文化横丁のパンフレット。

今回ご紹介した企業の出展は終了していますが、1週間ごとに次々と、色々な企業が出展しますので、何度行っても新しい発見と楽しみがあるのも万博の魅力です。「夢の旅」は10月13日までの期間限定です。ご来場はお早めに。